

1 学校教育目標

・進んで考える子ども ・責任をもって働く子ども ・健康で明るい子ども ・礼儀正しい子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○人、物、価値との出会いを通して児童の夢や意欲を育む学校 ○安全安心に学べる環境のもと、児童が笑顔で帰宅し、明日の授業を楽しみにする学校 ○常に情報発信し、家庭・地域の信頼を得て、連携した教育活動に取り組める学校
○児童・生徒像	○学習規律が定着し、意欲的に学習する児童 ○よりよい集団を目指し、積極的に行動する児童 ○体力向上に努め、笑顔で生活する児童 ○道徳的判断力を身につけすすんで実践する児童
○教師像	○自らが模範であることを意識して、情熱と向上心をもって教育に取り組む教師 ○児童と向き合い、寄り添いと励ましをもって成長を見守る教師 ○社会人、公務員として責任をもって職務遂行する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

◎学校の現状

各学年2学級、児童数339人である。明朗で素直な児童が多い。平成23年度より取り組みを始めている3名人指導（挨拶名人、靴揃え名人、廊下歩き名人）を生活指導の柱としており、学校生活の中で上級生が下級生を指導したり、模範を示したりすることが全児童への徹底に繋がっている。教員は、校内での種々の研修はもとより、足立区教育研究会の研修や、小中連携教育を軸に指導力向上に努めている。

○前年度の成果

- ・国語の読解力向上を目指して、朝学習や補習に取り組んできたことが少しずつ成果として表れている。
- ・社会力育成を目指して、外部との協力・交流授業を多数実施したことで社会の良識やマナーを意識実践する児童が増えている。

○今後の課題

- ・算数における基礎的内容の着実な理解とICT機器を有効利用した学習を全学年で共通実践することが課題である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	社会力の育成	○	○	○	○	○
3	健康な児童の育成	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学力向上		区学力調査通過率で国語算数共に８０％以上 ワークテスト正解率全学級８０％以上		区学力調査 国語 83.7% 算数 76.6% ワークテスト		国語は達成できているが、算数は達成できなかった。 ワークテストの学校平均は 80%を超えていたが、全学級ではない。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	放課後学習 A I ドリル	国語 算数	放課後 学習 年 20 回	【指導者】全教員 【目的】基礎基本の定着 【教材】 (前半) 読解プリント (後半) AI ドリル	全校一斉の放 課後学習時間 の設定	300 分以上の取 組	学校全体平均正解率 国語 81.83 算数 81.08 全学級達成には至っ ていない	放課後学習の対象教科を 広げたことで、基礎・基本 について個々の確認をす ることができた。テストは 学年によって偏りが見ら れる。	○
2 継続	朝学習	国語 算数	毎週 火水金 始 業 前 10 分	【指導者】担任 【目的】基礎学力の定着 記述力の向上 【教材】αドリル	ドリルの確認	全ページ実施	予定どおり実施 ドリル終了	予定通り実施した が、未定着児童の習 熟が課題である。	○
3 継続	家庭学習の 充実	全児童	年 3 回 6月10月 1 月	家庭学習強化月間とし、保護 者に呼びかけ、宿題の提出率 を確認する	宿題提出状況 調査	90%以上の 提出率	提出率 90.8%	達成できたが、より 高くなるよう継続し ていきたい。	○
4 継続	校内研究	全学年 算数	通年	・小中連携ともリンクさせた 研究授業 ・教科担任制	授業観察 教科指導専門 員指導	全学年研究 授業	校内研究等を予定通 り実施し、改善を図 ることができた。	専門員の指導の下 ICT 活用しながら、さ らに充実を図る。	○
5 継続	学校図書館 の利用	全児童	通年	・読み聞かせ ・読書週間の推進活動 (実施方法等検討中)	貸出数	基本計画目標 達成	読書貯金通帳も活用 し、各学年の基本計 画は達成できた。	読書への意欲や調べ 学習への支援をさら に充実させたい。	○

重点的な取組事項－２		社会力の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
社会力の育成		生活意識調査による「自己肯定感」「言葉遣い」「人間関係」の総合満足度を前年度より増加させる。	自己肯定感 64%→70% 言葉遣い 91%→92% 人間関係 94%→94%	児童の肯定的回答は微増となった。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
3 名人指導 挨拶名人 廊下歩き名人 靴そろえ名人	全学年 90%以上の達成 個々の目標とは別に学級目標等検討中	3 つの名人の実践を定期的に奨励し、年 2 回状況調査をする。	90%以上が達成している。挨拶は、微増となった。 挨拶や靴そろえなど率先して行う児童が多い。	挨拶、靴そろえに対して廊下歩きには課題がある。	◎
自己肯定感 社会貢献意欲の育成	意識調査 自己肯定感 70% 言葉遣い 90% 人間関係 90% 以上	学校行事 異学年交流 (R5 年度を上回る回数) クラブ、委員会活動	意識調査 自己肯定感 70% 言葉遣い 92% 人間関係 94%	自己肯定感項目は前年度より向上した。	○
外部との交流 出前授業の有効活用	各学年年間 4 回以上の実践	幼保小交流 高齢者施設交流 企業や教育関連団体の出前授業	LGBTQ や東京交響楽団等、アウトリーチコンサート、走り方教室等、各学年 3～6 回の出前授業等を実施した。	出前授業や、外部との交流授業を全学年において活発に実施することができた。	◎

重点的な取組事項－３		健康な児童の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身の健康指導の充実		児童意識調査及び保護者学校評価の関連項目達成と９０％以上	児童意識調査肯定的回答 88％ 保護者肯定的回答 90％	児童の悩みや不安理解についての割合が若干低い。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上	体力テストの全種目で都の平均を上回る	体育集会 投力向上授業（5、6年） なわとび週間 持久走週間	全般的に都平均を若干下回る結果であった。	体力テスト結果は学年により異なるが、全体的に柔軟性、跳躍力、俊敏性に課題がある。	●
健康指導の充実	意識調査による「健康」項目の満足度 92％以上	「命」の学習を学校全体の年間テーマとして取り組む。 ・人権プログラムや安全教育プログラムを参考に、毎月１回「命」にかかわる具体的テーマ（いじめ、自殺予防、交通安全、災害対策等）を設定し全学級で授業を実施する。	児童意識調査肯定的回答 88％ 学校評価肯定的回答 93％	昨年度に比較して衛生面での評価は改善しているが、児童は達成基準に届かなかったため、新たな手立てが必要である。	△
安心できる環境	意識調査による「安心」項目の満足度 92％以上		児童意識調査肯定的回答 93％	今後も日常の見守りをしっかり行い安心安全な環境づくりに努める。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・児童の学力向上に向けて、国語算数を中心に AI ドリルを取り入れながら朝学習や学校一斉の寺地タイムを行った。また、校内の授業研究の対象を算数とした成果が学力定着の確認時にも表れている。こうした取組を継続しつつ改善を図り、より学習効果が上がる方法を積極的に取り入れていく。
- ・高学年が「あいさつ」「くつ揃え」「廊下歩行」の模範を示すことで、学校全体で3名人指導を充実させることができた。落ち着いた学習環境をつくるため、今後も継続していく。
- ・体力テストの結果から、柔軟性、跳躍力、俊敏性に課題が見られた。今年度実施の縄跳びや持久走などに、目標を決め年間を通して取り組むとともに、今後も専門家の出前授業による投げ方や走り方教室などを継続し、体力向上を図る。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・今年度も各行事への協力のほか、交通安全の見守りや読書の読み聞かせ活動などご支援とご理解をいただきありがとうございました。子どもたちは一人一台タブレットの使用に慣れ、個々の学習だけでなく話し合い活動等、幅広く使えるようになってきました。一方、デジタル環境が整ったことで、情報の扱い方など新たな課題も生じます。日々、社会の変化を見据えながら、時代に合った教育活動を意識して進めております。今後も皆様のご意見を伺いながら適切な教育環境づくりに努めてまいります。ご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。